

北九州市保健環境研究所報

第 44 号
(平成28年度)

北九州市保健環境研究所



北九州市民憲章

わたしたちのまち北九州市は、美しい自然に恵まれ、
ながい歴史とたくましい産業をうけついできました。

わたしたち北九州市民は、このまちを愛し、よりいっ
そうの市民参加によるまちづくりをめざしています。

このふるさとに、実りある未来を築くため、わたした
ちは、みんなで守る約束を定めます。

緑を豊かに 清潔で美しいまちにします

きまりを守り 安全なまちにします

人を大切にし ふれあいの輪をひろげます

元気で働き 明るい家庭をつくれます

学ぶ楽しさを深め 文化のかおるまちにします

はじめに

平成 29 年 4 月 1 日付で環境局環境科学研究所は保健福祉局保健環境研究所として再スタートを切ることになりました。この組織再編の背景の一つに研究所を取り巻く環境の変化があります。社会的な関心は公害などの局地的な汚染問題から感染症や残留農薬などの健康影響へと移っています。

本研究所は昭和 40 年 6 月に衛生局衛生研究所として、わずか所員 8 名の陣容で小倉北区井堀の市立朝日ヶ丘病院の一角でスタートしました。

昭和 40 年といえば、五市が合併し北九州市が誕生した直後で、公害問題の解決が大きな課題でした。そのため、所員は部門の垣根を超え、細菌やウイルス検査さらに水質・大気中の汚染物質の検査に忙殺されました。昭和 49 年に戸畑区に新庁舎が建設され、名称も衛生局環境衛生研究所と変更、組織・人員とも拡大し研究所は現在の組織と同様に微生物・ウイルス、食品添加物などを担当する保健衛生部門と、大気・水質を担当する環境科学部門、総務の三つに分けられました。新庁舎では、公害克服に向けた様々な検査や調査研究が行われるとともに、その後大きな問題となってくる化学物質も新たなテーマとして取り組むなど、全国に先駆けた研究も進められました。昭和 50 年代には、あれほど激しかった公害は終焉し、環境問題は化学物質や廃棄物、地球温暖化などローカルなものからグローバルな課題に移っていきました。

このような時代の変遷の中、地方衛生研究所の役割として、最近、より比重が高まってきたのはウイルス・細菌が原因となる感染症、直ちに健康被害は生じないものの市民の関心が高まっている食品中の残留農薬や添加物などです。最近のインバウンド客の急増により、海外で発生した感染症が日本国内に持ち込まれる可能性がますます大きくなっています。

このような状況に少しでも迅速に対応できるように、本研究所は環境局より保健福祉局に組織が移管しました。しかし、大気・水質などの環境問題の重要性は決して下がるものではありません。本研究所としては、今後も環境・保健衛生の分野でしっかりと責任を果たしていきます。皆様の一層のご理解、ご協力を賜れば幸いです。

平成30年 2 月

北九州市保健環境研究所
所長 山下 俊郎

目 次

第1 沿革・組織及び概要

| | |
|------------------|---|
| 1 沿 革 | 1 |
| 2 組 織 | 1 |
| 3 検査件数 | 2 |
| 4 決算・予算概要 | 3 |
| 5 分析機器整備状況 | 4 |
| 6 庁舎配置図 | 5 |

第2 業務内容

| | |
|--------------|----|
| 1 試験検査等 | |
| 環境部門 | 6 |
| 衛生化学部門 | 10 |
| 微生物部門 | 17 |
| 2 調査研究 | 22 |
| 3 その他 | 26 |

第3 講演発表

(講演発表)

| | |
|---|----|
| ・焼却工場工程水における有機水銀分析法の検討 | 28 |
| ・北九州市洞海湾における簡易的手法を用いた付着動物調査について | 30 |
| ・デンケンGO 市民生活と電子顕微鏡 ～走査型電子顕微鏡を利用した 苦情対応事例とインターネット情報の活用について～ | 32 |
| ・こんなものが食品の中から ～食品中の異物苦情について～ | 36 |